
はい、ポケモンの世界に転生しました。

美空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はい、ポケモンの世界に転生しました。

【Nコード】

N5646W

【作者名】

美空

【あらすじ】

自分の素晴らしさ（笑）に気づいていない、前川晃。そんな彼が、ポケモン世界に転生します。自分が今まで図鑑登録したポケモンと共に、と言っても図鑑コンプリートしているが。とにかく、転生します。アニメ沿いになるかもしれないしゲーム沿いになるかもしれない。もしくはどちら沿いにもならないかもです。

ブログと言つ名の自己紹介

……まず、状況を確認しよう。

今、俺は何もない、ただ果てしなく「白」が広がる空間にいる。ちなみに、胡坐だ。

この空間には俺しかいないらしい。叫んでも反応が無いからな。

来ている服は俺が通っている高校の制服。

履いているのは学校指定の物。

手にしているカバンは学校指定のもので、中にはパソコン・ケータイ・財布・ゲーム。

教科書と筆記用具？置き勉に決まってるだろう。

あ、あとゲームカセットだな。

で、自分が誰なのか説明しよう。画面の向こうの読者様に。

俺は前川晃^{まえかわ・あきひ}。

ありがちな名前？うるせえ、文句なら親に言え。

高校二年生にして、販売されているポケモンのゲームはすべて制覇。

趣味はポケモン育成と読書。

特技は……無いな。

得意科目は英語と国語、社会、美術、技術家庭、体育、音楽。

苦手科目は数学と理科。

所属部活は無し、所属委員会は何故か図書委員長なので生徒会。

高校生でポケモンが好きと言う幼稚度以外は、全てが平凡な男だ。

記憶をたどってみよう。

俺は今朝、普通に六時に起きて学校に行った。

今日は数学が無い日だから、かなり気分がよかった。

朝ご飯はいつも通りのトーストとベーコンエッグ、牛乳。

怪しいものは食べていない。

……食べていない。多分。きっと。恐らく。もしかしたら。ひよつとしたら。May be。

で、幼馴染の天才男を迎えに行つて、一緒に（不本意ながら）学校に行つた。

ここで、気分が少し悪くなった。

だって、隣から「きゃあああああ

!!!!!!!!!!!!!!

」

なんて言われてみ？しかも、俺に対してではなく、天才男に対してだ。

天才男は天才男で「あの子たちが可哀想だよ」なんて苦笑いで言うし。

知らんし。

話がそれたな。学校に着いて、下駄箱を開けた。したら、中から「ドサドサドサツ」

つて手紙が落ちてきた。どうせ中身は「天才男さまの好みのタイプを教えてください。」

だからいつも家で捨てているんだが。

で、これに対しても天才男から「お前、本当に自覚してないの？」なんて言われるし。何を自覚しろつて言うんだ、何を。

で、いつも通り手紙を袋に突っ込んで教室に行つた。

軽く「おはよう」と挨拶をして、席に着いた。

今日は特に行事が無いから、朝読書だったな。

余談だが、読んだ本は ツチエルの風と に去りぬ、五巻。

朝読書が終わつて、天才男と（不本意ながら）音楽室に移動した。特に変わった事はないから、学校生活は飛ばそうか。

で、放課後だが。どっかの馬鹿な図書委員がしっかりと本の整理をしなかつたので

俺がやる羽目になり。居残りだった。許すまじ。

で、結局五時まで残つてた。どんだけ溜めてたんだよ。

学校を出て、まっすぐ帰宅しようとした。
校門を出た先から、記憶が無い。
気が付いたら、ココにいた。

これは、ひよつとしたら
友達が言っていた、「神様やっちゃったパターン」ではないか？
自信はないし確認もしてないが、考えられるのはそれだけだ。
まあ、天才男へ浴びせられていた黄色い声を聴くのもウンザリだっ
たし。

「いやあ、お待たせお待たせ！御免ね、少し手間取っちゃってさ」
この時、俺は感じた。

コイツ、天才男と同類だ。

転生準備

「いやあ、お待たせお待たせ！御免ね、少し手間取っちゃってさ」

コイツ、天才男と同類だ。

イケメソは敵である。

そう考える奴よ、今すぐ俺のところ来い。

同じ考えを持つ者同士、仲良くやろうぜ。

とにかく、コイツは顔よし！スタイルよし！な、イケメソである。
今すぐにコイツをこの世から抹消したいぜ。

「あのさ、スルーしないでくれない？それはそれで傷つくんだけど？」

そうか、それは良かったな。

俺としては、イケメソは傷つけばいいという考えを持っている。

理由？そんなの、天才男の引き立て役になって、俺が必要最低限以下しか目立たなかったからだ。

それは置いといて、

「俺はスルーしていない、お前が勝手に話しているだけだ。」

「うわつ、キツッ

神様にそんな事言っていないの?!」

What?

「お前が神様？紙様の間違いじゃないのか？」

「失礼な！僕は神様！」

「神様が僕、ねえ。神様って、我とか儂とか余って言うイメージが

あるんだが」

「呼び方なんてどうでもいいよ！とにかく！君には、地球にサヨナラしてもらおうからね！？」

「どうせお前のミスだろう」

これが友達の言っていた事が。

「五月蠅い、確かに僕が君を誤って殺しちゃいました！すみませんでした だっ」

「謝る気無いだろ、お前」

「ない。」

「即答すんなやこの年齢不詳神め。」

……なんだこの間は。

「神って認めてくれた

！やった！」

「五月蠅い。さっさと要件を言え、俺は早く寝たい」

「はい！君には、ポケモンの世界に転生して頂きます！」

ポケモン、だと……？

「俺が最も愛する二次元じゃないか！」

「あ、そうなの？じゃあちよごいいね。」

君にはお詫びとして、これに書いてあるものの幾つかをあげるよ」

転生補正候補

- 一、今よりもかなりカッコいい容姿
- 二、道具及び木の実の上限なし
- 三、脅威的な身体能力&度胸&知能
- 四、今まで登録したポケモン全てを連れていく。
その際、ステータス、レベルは上限まで。
- 五、かなりお茶らけた人になる
- 六、真面目すぎる人になる
- 七、性格は今のままで、それ以外は

上記の物（五、六以外）にして転生。

「……これ、普通に七じゃないか？」

「ですよー。っつーわけで」

……嫌な予感しかしないぞ？

あ、下に穴がある。

ん？穴？

うわぁ、現在急降下中じゃないか。

てか、ふざけんな！この糞紙が！

「行ってらっしゃい」

「何が「行ってらっしゃい」だ！ふざけんな
「！」

……前川晃、2011年10月5日、死去。
死因、トラック運転手の飲酒運転による事故。
本当の死因は、神によるミス。

そして、同時刻。

「ポケットモンスター」の世界に、一人の男が現れた。

その名も

「アキト・ストレイン」

またの名を、「前川晃」。

世界説明（前書き）

付け加える可能性が大あり。

世界説明

この小説では、原作と異なる点があります

異なる点

- ・ 名字がある
- ・ 人種がいくつかに別れている
- ・ ポケモンが喋る
- ・ ポケモンが主人になついたら擬人化可能
- ・ ボールの種類が増える
- ・ ポケモンは技を幾つでも覚えられる

原作からの引き抜き

- ・ ハートゴールド・ソウルシルバーの、先頭のポケモン連れ歩き。
全地方共通。
- ・ ブラック・ホワイトのポケセンとフレンドリィショップの合体。
全地方共通。

名字について

「オーキド・ユキナリ」のように、名字が前に来るのと、
「サトシ・アーカイブ」（原作にはない。）のように名字が後ろに
来るのがある。

名字が前に来る人種

人種名・芽射人種

世界人口、四分の一を占める。

芽射人種を細かく分けてみた。

名字に色（英語でも何でも）を用いる種・右辺色人種
名字に特に何も用いない人種・右辺無人種

名字が後に来る人種

人種名・灰人種

世界人口、四分の三を占める。

灰人種を細かく分けてみた。

名字に色（英語でも何でも）を用いる人種・左辺色人種

名字に特に何も用いない人種・左辺無人種

容姿にコレ、とって特徴的なモノが無い。

そのため、名前を聞くまではどの人種かがわからない場合が多い。

旅の始まり（前書き）

短いです。

旅の始まり

「さて、と荷物の確認荷物の確認
荷物の確認

確認

お？おお？

へえ、ふーん。

おお。

確認終わり。

リストアップしよう。

- 1、携帯電話（充電の必要なし）
 - 2、パソコン（バッテリー切れなし）
 - 3、ゲーム（持っていたカセット全て保存されている）
 - 4、財布（中には999万円）
 - 5、木の実袋（何故か四次元につながっている）
 - 6、道具袋（何故か四次元につながっている）
 - 7、大切なモノ袋（何故か四次元につながっている）
 - 8、灰色の手帳（この世界の説明やらなんやらが書かれている）
 - 9、バツジケース（全地方制覇）
 - 10、ポケモン図鑑全国版（制覇）
 - 11、リボンケース（制覇、トップコーディネーターらしい）
 - 12、トレーナーカード（名前はアキト・ストレイン）
 - 13、ポケギア・ポケナビ・ライブキャスター
- （ジムリーダー、博士、四天王、チャンプの番号入り）

こんなもんか。

「じゃ、今いる手持ちとご対面つと」

鬼が出るか蛇が出るか？

もしくは悪魔が出るか？

俺としては、アイツ等が出て来てくれると嬉しいんだが。

「…………お前らかよ、ったく…………」

嬉しい！

嬉しすぎて泣けてくるぜ…………泣かないけどな。

「炎飛、草菜、修羅、電羅、嬢、旋律」

嬢【アキト？】

旋【アキト、みたいですね】

修【やっと、会えたな】

電【シシッ】

草【…………嬉しいですね】

炎【……………フン】

嬢【炎飛、素直になりなよ！会えて嬉しいくせにー】

「…………お前ら、人の言葉喋れるのか？」

【【【【【喋れない】】】】】

「…………じゃあなんだ、俺がお前らの言葉を理解してると？」

【【【【【そうなる】】】】】

…………それにしても息ぴったりだな、おい。

「じゃあ、戻ってくれ。嬢、お前は残れ。一匹でも出しとくと

なんとかなるだろ」

【【【【【はい／おう／うん！】】】】】

【はいー】

それにしても、俺が一番気に入ってた奴等が来るとはな…………
これから、面白くなるんじゃないか？

「さあ、旅の始まりだ！」

他の奴等には、あとで会いに行くか。

主人公と手持ち、道具の確認

名前：アキト・ストレイン（前世名：前川晃）

年齢：高校二年、早生まれなため未だに16歳

誕生日：3月28日

星座：白羊宮・牡羊座

血液型：A型

性格：極めて温厚。争い事は……まあ、人並みぐらい？に好む。

能力：主人公スキルとして「ザ・鈍感王」の称号を獲得。

成績は上の上で平均得点は毎回95点以上。

運動神経は100メートル8.78秒。（長距離の方が得意）
要するに完璧人間。

容姿：元々がかなりカッコいいのに加え、「今よりもかなりカッコいい容姿」

を手に入れたため、敗北感が襲ってくる。

現在の立場：世界リーグチャンピオン（その時の名前は？ソラ？）

トップコーディネーター（その時の名前は？チアキ？）

現在のカバンの中身：

1、携帯電話（充電の必要なし）

- 2、パソコン（バッテリー切れなし）
 - 3、ゲーム（持っていたカセット全て保存されている）
 - 4、財布（中には999万円）
 - 5、木の実袋（何故か四次元につながっている）
 - 6、道具袋（何故か四次元につながっている）
 - 7、大切なモノ袋（何故か四次元につながっている）
 - 8、灰色の手帳（この世界の説明やらなんやらが書かれている）
 - 9、バツジケース（全地方制覇）
 - 10、ポケモン図鑑全国版（制覇）
 - 11、リボンケース（制覇、トップコーディネーターらしい）
 - 12、トレーナーカード（名前はアキト・ストレイン）
 - 13、ポケギア・ポケナビ・ライブキャスター
- （ジムリーダー、博士、四天王、チャンプの番号入り）

灰色の手帳について：神様が与えた、神の知識が詰まった唯一無二の手帳。

人間関係：男四天王とは悪友、女四天王は天敵兼理解者、ジムリーダーは情報源、

チャンピオンは頼れる奴等。これらすべてに当てはまるのが「仲間」という認識。

「的存在、義理の」：

オーキド博士は義理の父、シゲル・グリーンは義理の甥（弟的存在）

レッド・サトシは近所の弟的存在。

オダマキ博士、ウツギ博士はほっとけない親切的な叔父さ
ん的存在

ハルカ、コトネは妹、ユウキ、マサト、ヒビキは弟的存在。

分。

ナナカマド博士は親しいお爺ちゃん？って感じかな？多

子。

ヒカリは危なっかしい妹、コウキ、ジュン、シンジは弟

交友関係：基本的に登場するキャラ全員と面識があり、親しい間柄。

弟・妹的存在、弟子からは慕われている。

彼女が居る。後ほど分かるかと。

好きな場所：森の中

嫌いな場所：発電所（そこで感電したことがあるため）

好きなもの：寝る事、ポケモンと戯れる事、読書、食べる事

嫌いなもの：起きる事（低血圧）

好感を持てる奴：仲間を大事にする奴、優しい奴

嫌いな奴：とにかくウザい奴、仲間を大事にしない奴。（シンジは別）

シンジが焦っていると

察したため

手持ち状態：

炎飛：リザードン、 。覚えられる技は全て覚えている。ツンツンデレな不良。

草菜：フシギバナ、 。覚えられる技は全て覚えている。優しいお姉さん。

修羅：フライゴン、 。覚えられる技は全て覚えている。厳つ

いけどいい兄さん。

電羅：デンチュラ、。覚えられる技は全て覚えている。悪戯
好きのやんちゃ坊。

嬢：マニユーラ、。覚えられる技は全て覚えている。幼い
おませさん。

旋律：メロエッタ、？。覚えられる技は全て覚えている。礼儀
正しいまとめ役。

サトシ・シゲルの出発日。

『アキトくん、サトシの旅について行ってくれないかしら?』
「…………え?」

な・に・が・お・き・た・?

<<<回想>>>

「嬢ー、そろそろ行くぞー?」

【にゅう。歩くの?】

何を言い出すんだこいつは。

お前体力ないんだから歩けよ。

それにマサラタウンだからね?!

もう目の前だからね!?

これで修羅に乗るだ炎飛に乗るだ言ってきたら

修羅の修行の相手をしてもらおうと思っただんだが……

【あ、なんか悪寒がする。よし、アキト!歩こう!さあ歩きましょう!」

あー、歩くって楽しいなー!】

悪寒がしたらしいので歩くと言いだした嬢。

まあ歩いてくれるに越したことはないからいいか。

「んじゃ、行きますか。」

【おー!】

<<<回想終了>>>

うん、俺普通にマサラタウンに入ったただけだよな?
何で急にハナコさんに捕まってんの?

「えーと、説明をお願いします。はい。」

『え？ああ、そうよね。今日サトシが旅に出るの。
で、心配だから、腕が立つアキトくんについて行って欲しいな
ーなんて。』

あ、別に強制じゃないから断ってくれていいのよ？
『今日だったのか、サトシが旅立つ日。』

このままサトシにくっついて行ったら、厄介な奴等に巻き込ま
れんじゃんwww

「嬢、お前は どうしたい？」

【んー？一緒に行ったら？楽しそう】

「……じゃあ、一緒に行きます。サトシは今どこですか？」

『本当？有難うね、アキトくん。サトシなら、まだ研究所に居ると
思うわよ？』

あ、シゲルの車が来た。

ってことは、今ピカチユウとご対面か？

「分かりました。行ってきます。」

『ええ。気をつけてね』

.....

『あれ？アキト兄さん？』

シゲルだ。俺の前では丸いけどサトシの前ではツンツンなシゲル
だ。

「おうシゲル。これから旅か？」

『まあね。アキト兄さんは？』

「俺はサトシの旅に同行しろってハナコさんから頼まれたからね。

これから研究所。」

『そ、そっか。じゃあ、俺行くから、また今度。』

「ああ、じあな」

……顔が引き攣ってたのは何でだ？

その頃のシゲル

(……俺がアキト兄さんと一緒に行きたかったのに……)

さてと、研究所に行きますかねー！

……面倒臭いけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5646w/>

はい、ポケモンの世界に転生しました。

2011年11月20日19時46分発行